しまねの社会教育だより

vol.29
島根県立西部社会教育研修センター
島根県立東部社会教育研修センター

photo 松江市島根公民館「しまね寺子屋」（地域とすすめる「松江 てらこや」事業）

特集 『教育の魅力化』推進に向けて、社会教育が果たす役割とは？

～岩本　悠　島根県教育魅力化特命官に聞く～

2019.
9月号

contents

■ そうだ!!「地域魅力化プログラム」を活用してみよう！
■ 学びがチカラに!!〔出雲市荒木コミュニティセンター森山由貴さん〕
■ わがまちの社会教育の実践紹介　〔安来市・浜田市〕
■ 親学の今！　〔大田市〕

特集『教育の魅力化』推進に向けて、社会教育が

2020年度より小学校から順に実施される新学習指導要領では、その理念として学校と社会との連携及び協働によって、「社会に開かれた教育課程」の実現を図っていくことが示されています。島根県ではこれに先駆け、「教育の魅力化」として、地域の魅力を活かしながら島根で育つ子どもたち一人一人にとっての魅力的な教育の実践を進めているところです。学校教育において、今後、地域との協働がますます重要視される中、社会教育に期待される役割とは何なのか、島根県教育魅力化特命官として「教育の魅力化」を推進している岩本悠氏にお話を伺いました。

いわもと　ゆう
岩本　悠
（島根県教育魅力化特命官）

東京生まれ。学生時代にアジア・アフリカ２０ケ国の地域開発の現場を巡る経歴を持つ。幼・小・中・高校の教員免許を取得し、卒業後は、ソニーで人材育成・組織開発などに従事する傍ら、学校・大学における開発教育・キャリア教育に取り組む。２００７年より８年間、隠岐島前高校を中心とする学校と地域の協働による魅力ある学校づくりを実践。２０１５年から島根県教育庁で次代の人づくりに従事。

1　教育の場としての島根県の魅力

Q. 岩本さんの取組は、隠岐島前高校の魅力化に始まり、今では島根県全域に活動の場を広げられておられますが、そもそも岩本さんにとって島根の魅力とは何でしょうか。

A. 人だと思っています。島根には地域や教育に対する思いを持っている魅力的な人たちが非常に多く、私自身そういった人たちとの関わりの中で、島根に対しての思いがより強くなってきました。そして、こうした「ひと・もの・こと」などの地域資源を活かした学びが、ふるさと教育を土台にしながら、小・中学校や高校で行われているというのが、島根の教育の大きな発展可能性であり、魅力だと感じています。

また、島根では、一人一人を大切にする教育が行われてきていますが、このことは、これから先「個別最適化された学び」が重視される時代において、大きな強みにできると思います。

2　「教育の魅力化」で深まる学校と地域との連携

Q. 「教育の魅力化」とはどういうものですか。また、その中では、地域課題解決型の学習が重要視されていますが、これを進める上での課題は何でしょうか。

高校生と地域住民が共につくる観光ツアー

A. 「教育の魅力化」とは何なのかというと、学校教育の言葉で言えば「社会に開かれた教育課程」の実現、社会教育で言えば、「地域と学校の協働による次代の人づくり、つながりづくり、地域づくり」のことです。

今のふるさと教育や地域課題解決型学習の課題の一つは、教科の学びとの接続です。

地域を舞台とした学びをすればするほど、なぜ今この教科を学ぶ必要があるのかということに子どもたち自身が気付き、意欲的に教科学習に取り組むとともに、そこで学んだ知識・技能や見方・考え方などを地域での活動につなげていく。この循環をつくっていく必要があると思います。

次に、教育課程内の活動と社会教育とをつなげることです。子どもたちの学習意欲が高まれば高まるほど、教育課程の時間内に収まらず、放課後や土日に子どもたちが地域に出て活動するということが起きていきます。「働き方改

革」が叫ばれている中で、教員がすべてを見ようとすると限界があります。教育課程内の学習活動を地域での社会教育ときちんとつなぎ連携させていくことで、教員の負担感を減らすとともに、地域課題解決型学習を充実させることができるのではないでしょうか。

3 学校教育・社会教育の協働のかぎ　～コーディネート人材～

Q. 島根県の学校教育と社会教育の協働は進んでいると言えるのでしょうか。

A. それぞれの市町村で連携は進んでいますが、まだまだ課題はあると思います。今後はさらに、社会教育を担っていく人材や社会教育のプロフェッショナルを育てていく必要があると考えています。学校の中にも社会教育を理解している教職員をより増やしていくことが重要です。学校と地域の協働においては、学校側から開いて地域に手を伸ばしていく人と、地域側から学校に手を伸ばしていく人、この両方の手が握り合うことで良い協働になると思っています。

また、地域ごとに学校とつながる保護者・地域住民などの協働体制づくりが重要で、保・幼・小・中から高校まで積み上がっていくような形を社会教育と学校教育が一緒になって作っていけることが理想だと考えています。

このような学校と地域社会の連携や協働体制づくりにおいて、重要になってくるのが**コーディネート人材**です。学校と地域をつなぐ役割を果たすコーディネーターの役割や期待は、これからますます大きくなっていくはずです。

さらに、来年度から「社会教育士」の称号が与えられる社会教育主事講習がスタートします。これをうまく生かして、島根の様々なところで社会教育士が活躍している姿を夢に描いています。

4 大人が変わる、子どもに大人の姿を見せていく

Q. 地域住民が学校と協働していく上で、社会教育の果たす役割はどんなことでしょうか。

A. 子どもたちの力を育てる上で大事なものは、子どもたちを取り巻く環境や**土壌**です。問いが交わされる対話的な土壌とか、挑戦や失敗がバカにされない土壌、一人一人の個性や多様性が尊重される土壌など、学校・家庭・地域の中で、これらの土壌を豊かにしていく必要があります。そして、これらの土壌をつくるには大人たちのあり方や言動が実は非常に重要となります。行き着くところ今の魅力化の理念は、大人の姿勢が問われていると思います。対話し多様な人と関わっていける協働性や学び続ける探究性、地域社会に開かれた社会性などの力を子どもたちにつけていきたいと思った時には、大人たちがそれを率先して実践する姿勢を持っておくことが重要です。

でも、大人がすぐに変わるのは難しい。だから、子どもたちが変わっていくのを、多くの大人が目の当たりにできる場をつくり、子どもの変化を見て大人も変わっていく、そのような学び合いが同時に起きていくような場やしかけを作っていくことも社会教育の**役割**の一つです。その中で、「うちの地域で育てていきたい子どもたちの姿というのはこういう姿だよね。」「自分たちには何ができるのだろう。」と、学校を含めた地域の大人たちの間で子どもや未来に向けた対話が起こってほしいと思っています。そのことが「社会に開かれた教育課程」の実現、「教育の魅力化」の推進の第一歩になると思います。

「学びの土壌」

- 挑戦の連鎖を生む安心・安全の土壌
- 協働を生む多様性の土壌
- 問う・問われる対話の土壌
- 地域や社会に開かれた土壌

地域・教育魅力化プラットホーム（編）
「地域協働による高校魅力化ガイド」岩波書店より

情報 そうだ!!「地域魅力化プログ

■魅力ある地域をめざして・・・

2018 年 12 月の中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(答申) では、これからの地域における社会教育の果たすべき役割として、“人づくり”“つながりづくり”“地域づくり”という 3 つのコンセプトが示されました。

このほど、社会教育研修センターで開発した『地域魅力化プログラム』は、魅力ある地域づくりに向けたつながり意識を醸成するための有効なツールです。地域課題解決に向けた話し合いの場やつながりづくりを図るためのワークショップの企画・運営の参考になるプログラムの活用について紹介します。

■ワークショップを企画・設計してみよう！

『地域魅力化プログラム』(以下「本プログラム」) では、参加型学習の手法を用いて参加者同士が交流しながら気付きを得るほか、話し合いを通して、今後の動きについて考えたり、決定したりすることをねらいとしたモデルプログラムを掲載しています。

❶ワークショップのねらいを考える

地域の中・高校生が地域貢献できる場を作り、地域の活性化をしていきたいけどなぁ・・・。

まずは、高齢者の方々に、若い世代の思いや願いを知ってもらうことから始めてみるのはどう？

地域課題解決に向けて地域住民が動き出すためにまず、「だれに」「どうなってほしいか」をイメージすることが大切です。「だれに」という対象者の範囲を絞ることでねらいを立てやすくなります。また、ねらいは、事前に企画者側で共通理解を図っておくとワークショップ当日に向けてスムーズに対応することができます。

❷話し合いの場を設定する

既存の活動の中に設定する、新規に話し合う場を設定するなどといったことを想定します。ワークショップの時間が十分に確保されることで一人一人の意見が大切にされ、参加者の満足度が高まります。

❸話し合いの場にふさわしい参加型学習の手法を決める

まず、参加者からできるだけたくさんの意見を聞き出したいから・・・。

【見方・考え方を広げるときは】
ラベルワーク、リフレーミング、ブレインストーミングなど

【考えをまとめるときは】
カードワーク、ランキング、フリップトークなど

本プログラムの 14 ページには、参加型学習の代表的な手法が掲載されています。ここに掲載されている手法は、テーマについて参加者が「話すこと」を主とした参加型学習です。

Check!! 『地域魅力化プログラム』を活用する方への支援をします！

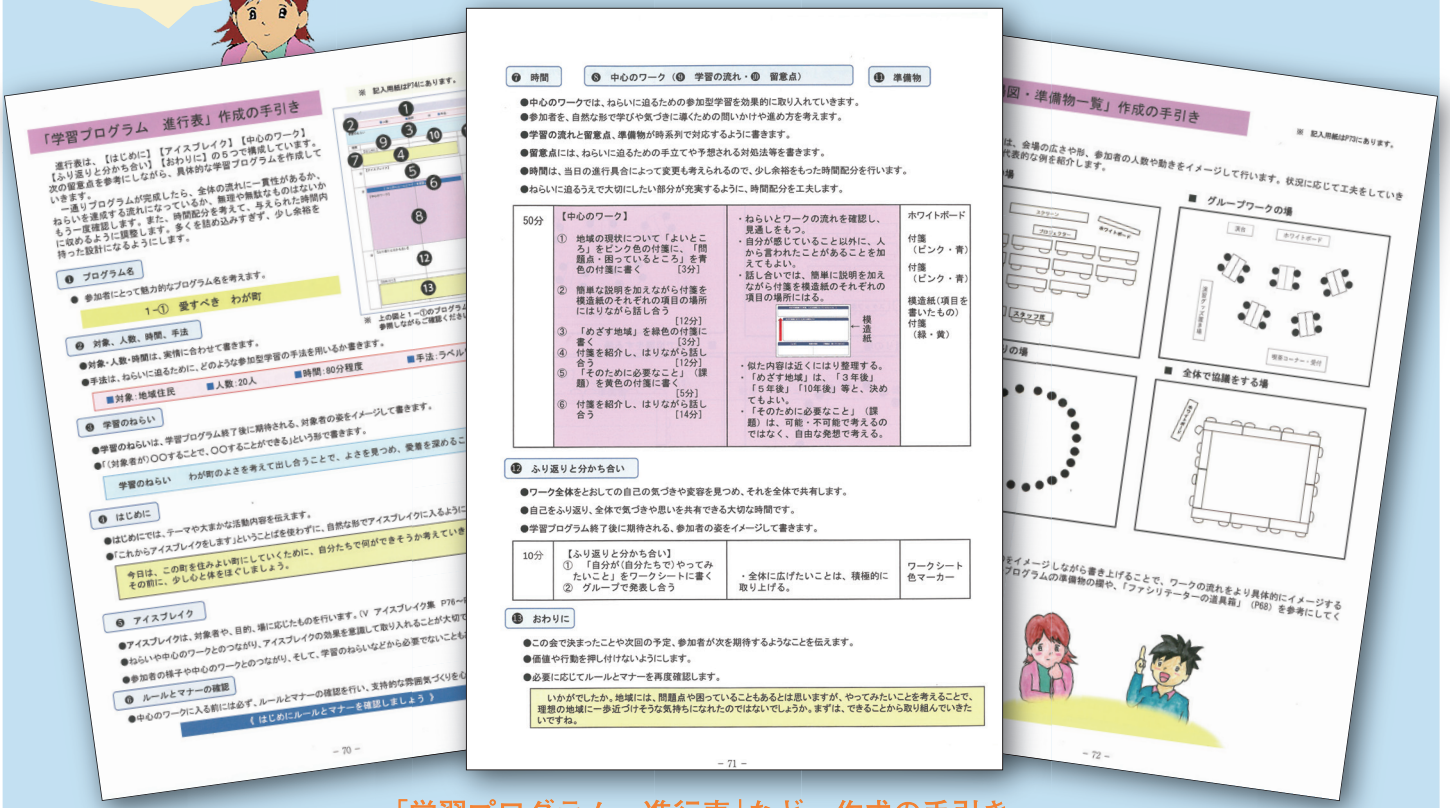
地域魅力化プログラムを活用しようとお考えの方や、ファシリテーター養成講座修了者の相談に随時対応しています。東部・西部社会教育研修センターまでお問い合わせください。

ラム」を活用してみよう！

④ 学習プログラムの進行表を作成し、ファシリテートの準備をする

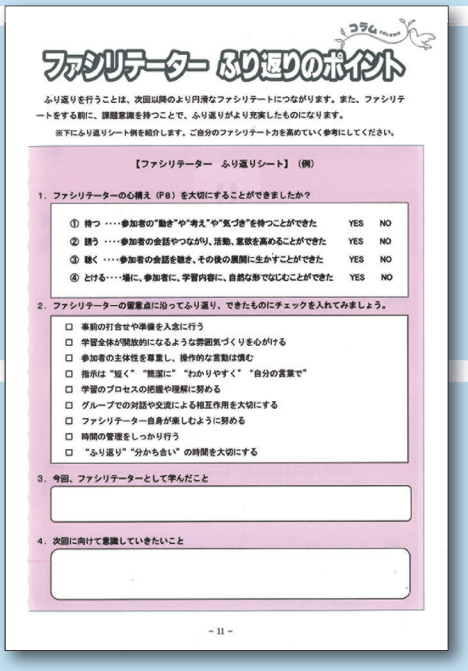
どのように会を流したらいいのかしら・・・。

下の３ページ（本プログラム 70 ページから 72 ページ）を参考にすると「学習プログラムの進行表」が作成できます。【はじめに】【アイスブレイク】【中心のワーク】【ふり返り分かち合い】【おわりに】という流れで作ることができます。



⑤ ワークショップでファシリテートを実践する

本プログラムのコラム
「ワンポイント Q＆A」（12･32 ページ）
「ファシリテーターの道具箱」（68 ページ）
「アイスブレイクについて」（76 ページ）
も参考にできます。



⑥ ワークショップをふり返る

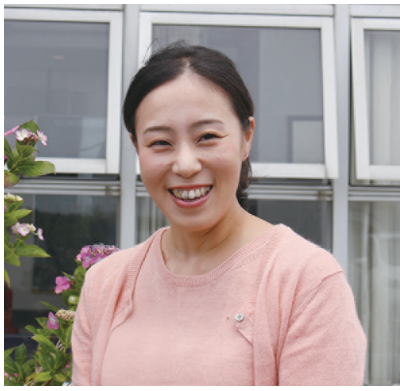
本プログラムの「ファシリテーターふり返りのポイント（11ページ）」を利用して、ワークショップをふり返り、自分のファシリテート力を高めていくことができます。また、参加者アンケートをとられた際には、質問項目の理解度・満足度等から実施されたワークショップのふり返りをすることも大切です。

※当センターホームページにて、『地域魅力化プログラム』（PDF 版）がダウンロードできます！

学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

ひとつひとつの事業のつながりを考えながら、地域づくりを進めたい！



出雲市　荒木コミュニティセンター　マネジャー　森山　由貴さん

「１年目、右も左も分からずに毎日どうやって事業をやっていこうかという状況で、思いきっていろいろな研修に飛び込んでみました。２年間学び、現場で事業実践することで、徐々に自分の自信につながっています。」という森山さんは、荒木コミュニティセンターに勤めて、今年で３年目。１・２年目に社会教育主事講習[B]を受講し修了されました。今は、主に放課後子ども教室に関係する事業に関わりながら、“地域づくり”や“人づくり”に取り組んでおられ、その様子について熱い想いを語ってくださいました。

社会教育主事講習［B］で、学習プログラムの立案に取り組んだことは大きな学びとなりました。ここで学んだことを職場へ持ち帰ることで、自分が行っている事業を単発として考えるのではなく、つながりのあるものと考えることができるようになりました。私が今担当している「荒木こどもくらぶ」は、１年を通して活動（年間 40 回の事業）があります。多くの大人たちが関わりながら活動を進めていくので、しっかり話し合いねらいに向けた想いを共有すること、そして、その想いを共有し続けるために小さなPDCAサイクル※を回し続けることを心がけています。

また、自分が“やってみたい！”と思ったことはすぐに行動に移せるようになりました。周りの人たちに声をかけ自分の思いをじわじわと伝えながらですけどね・・・。

■学びをより充実させるために

「荒木こどもくらぶ」では、大人の話し合いの場を多く設けています。年度当初からひとつひとつの事業が「子どもたちの現状に合っているのか」、「子どもの成長につながるのか」について協議をしていきます。さらに、事業前後の打ち合せや反省会を重ねていく中で、「子どもたちのために勉強しよう！」という姿も見られます。さまざまなアイデアが生まれることで、ひとつひとつの事業に見直しをかけ、マイナーチェンジしながら子どもの学びの機会をより一層充実させていきたいと考えています。

■より多くの人に活動を知ってもらいたい

文化祭で手作りマグネットの店を出しました。子どもたちによる販売を企画することで保護者の皆さんがスタッフとして参加してくださったことが嬉しかったです。また、店の横に“さりげなく”こどもくらぶの活動紹介ボードを設置しました。地域の皆さんに、事業について詳しく知ってもらう機会になったと思います。

それと・・・自分が小学生時代に「荒木っこまつり」で味わった販売経験の楽しさを、今の荒木の子どもたちにも是非味わってほしいという想いが強い活動ですね。

「積極的に活動に参画してくださる“地域のスペシャリスト”とのつながりを大切にし、いろいろな人の思いを聞きながら、自分が挑戦できることを見つけ、トライできる環境にいることが楽しい」、「地域の皆さん、荒木コミュニティセンターの職員に温かく見守ってもらえることに感謝している」とも言っておられました。

※PDCAサイクル・・・Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことで事業等を改善をしていく手法

わがまちの社会教育の実践紹介

安来市

地域と学校・こども園が一体となった地域づくり「今、赤屋が熱い！」

赤屋交流センター　主事　増田　由美子

赤屋地区には小学生から高齢者までの幅広い意見を集約した「豊かな緑と笑顔あふれる たすけあいの郷 赤屋」というビジョンがあり、このビジョンに基づいた地域づくり（活動）が展開されています。この地域ビジョンは小学校の「ふるさと教育推進事業実施計画」とリンクしており、学校と地域が連携して実施する事業も数多くあります。特に地元の方の協力のもとで行う「米作り体験」や「ふるさと探訪」などは、子どもたちが赤屋を体験・発見するよい機会になっています。

さらに今、地域のことを一生懸命考えた子どもたちの思いの実現に向けて、大人たちも動き始めています。

一例として「ゆるキャラプロジェクト」が立ち上がり、子どもたち発案のご当地キャラの製作や活用方法などを検討しています。

また、こども園と地域との交流を目的として「カフェ」が開催され、店員として活躍する園児に地域の方も大喜びです。JAや郵便局、小学校なども自分のところでも開催したいと意気盛んです。

最近では、普段参加出来ない子育て世代をターゲットにした事業を計画するなど、今まさに赤屋は熱く！熱く！なりつつあります。

ゆるキャラの活用方法を検討するメンバー

カフェに訪れた地域の親子

幅広い世代が地域のよさや課題について意見を共有するプロセスを経たうえで、子育て世代や子どもたちなどの若い世代が参画、活躍できる場が工夫されています。

こうした取組が様々な形で繰り返され、続けられていくことが人々のつながりを深め、現在の地域の担い手を養うのみならず、次世代の地域の担い手を育んでいくものと期待されます。

（松江教育事務所 安来市派遣社会教育主事）

浜田市

HOOP!（ふうぷ）でつながる子育て世代

白砂公民館　主事　吉本　美和子

HOOP!（ふうぷ）は、「浜田親子共育（ともいく）応援プログラム」の頭文字をとって名づけられました。浜田市では、島根県が作成した親学プログラム、親学プログラム２と浜田市が作成した乳幼児期版のプログラムを包括してHOOP!と呼んでいます。

私は、HOOP!ファシリテーターとして参加者の皆さんと関わる時、いつも自分の子育て期を思い出します。30年前、子育てに全く自信がなくて、自分を責め、子どもに当たりそうになったことがありました。そんな時、気後れしながらも、子育てについて相談できる場であった児童館へ行ってみました。そこでは、悩みを聞いてもらえるだけではなく、子どもを通して同じ世代の親さんと顔見知りになれるなど、人と人とのつながりができました。

その頃と現在では、子どもを取り巻く生活環境は激変していますが、子育てに悩む気持ちは同じだと感じ、子育て期の親子にいろいろな人とつながっていく楽しさをHOOP!を通して知ってほしいと思っています。

乳幼児期の子育て世代は、地域づくりにとって、とても大切な世代だと思います。HOOP!がもっと地域の中に溶け込み、地域の方に子育て世代を見守っていってもらえるよう、公民館主事として、ファシリテーターとしてつないでいきたいと思います。

若い世代のファシリテーターも登場

熱心に話し合う参加者の皆さん

浜田市では、多くの子育て世代の皆様に子育てについて楽しく学び、語り合う場をお届けできるようHOOP!の拡充に努めています。その一翼を担っているのがHOOP!ファシリテーターの皆さんです。吉本さんは、温かい雰囲気作り、参加者の方が話したくなる問いかけをしながらプログラムを進め、多くの子育て世代の皆さんをつなげておられます。

（浜田教育事務所 浜田市派遣社会教育主事）

親学の今！［大田市］編

今回の「親学の今！」は大田市特集。親学プログラム活用の“好循環”をめざす大田市の取組について紹介します。

大田市では、家庭教育支援の一環として、親学プログラムを推進してきました。長年の取組から、定着してきている面もありますが、「親学活用の場の減少」や「親学ファシリテーターの固定化と減少」等、新たな課題も明らかになってきました。そこで、昨年度から次のことを大事にしながら、親学の取組を進めていきました。

◉啓発を通して、活用の場を広げる！

保育園の園長会（１日保育参観）、母子保健推進員の全体会（育児サークル）、市教研養護部会（学校保健委員会、１日入学、就学時健診）、PTA 評議員会（PTA 研修会）といった様々な場で親学をどのように活用できるのかをていねいに説明しています。親学の活用が広がることは、親学ファシリテーターの方が活躍できる場を広げることにもつながります。

◉家庭教育支援に関わる新たなファシリテーターを養成する！

活動できる親学ファシリテーターの方が年々減っていることもあり、昨年度、市独自に養成講座を開催しました。新任の公民館主事の方、健康増進課の助産師、社会教育課の社会教育指導員といった方にも参加していただきました。また、親学がどのようなものなのかを知っていただきたい行政職員の方に「親役」として参加していただきました。

◉新人ファシリテーターのサポート充実を図る！

新しく養成されたファシリテーターの方が安心して活動できるよう、ベテランのファシリテーターの方とペアになって現場に行っていただいています。また、実施後のふり返りを行うことで、よかった点や改善点を明確にし、次の一歩に自信が持てるよう、支援を行っています。

打合せでしっかりアドバイスをもらい、当日は細かな部分でフォローしてもらいました！
（新人ファシリテーター）

経験の浅いファシリテーターさんと組むことで、新たな発見もたくさんあり、よい刺激になります。
（ベテランファシリテーター）

大田市を通して依頼される親学だけでなく、親学のよさや有効性を実感された方がそれぞれの現場の実態にあった内容を自発的に実施する親学講座が今後、広がっていけばよいと思っています。そのためにも、行政として親学のよさをアピールするとともに、様々な立場で活躍するファシリテーターの養成やファシリテーターの方のニーズに応じた学びの場を提供していきたいです。

東部社会教育研修センター
〒691-0074 出雲市小境町1991-2　サン･レイク2F
Tel.(0853)67-9060　Fax.(0853)69-1380
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター
〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344　Fax.(0855)24-9345
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第30号は2月末発行予定

この印刷物は古紙パルプの用紙を使用しています。